

【学生フォーラム】

児童の学ぶ意欲を引き出す授業づくり

—生活科を中心とした授業の言葉がけに焦点を当てて—

岡崎女子大学 朝倉万菜美

要 旨

長期フィールド実習とは、4年次の1年間、週に1回の実習を行うことである。私は、幼児教育から小学校教育へと移行し、生活科が設置されている2年生の学級で授業を観察し、チームティーチングをすることで教師としての実践力を磨き、授業技術の向上に努めた。授業中の教師の効果的な発問に着目し、教師の言葉掛けに対する児童の反応を観察することで、授業展開に必要な言葉掛けを学ぶことをねらいとして研究を進めた。また、8か月間にわたって児童の姿を観察することで児童の成長を間近で見ることができ、児童理解も深めることができた。

1. 研究の内容

私は、現在大学で小学校教育と幼児教育を学んでおり、幼保小接続について関心がある。そこで、遊びを中心とした幼児期の学びから教科学習中心の小学校の学びへと移行する時、いかに段差を無くすことができるかが重要だと考えた。また、幼児教育との関連を図り、直接体験を重視した学習活動を展開することのできる生活科の授業が設置されている低学年の授業を参観することで、児童の学ぶ意欲を引き出す授業づくりについて明らかにすることを目的として、研究を行った。

2. 授業観察と考察

(1) 考えの深まる効果的な板書

児童の発言は正解不正解にかかわらず板書することで、児童の意欲や自信を損なわないような配慮があることを学んだ。児童が正解とは異なる答えを発言した際に、その児童の言葉を板書し、そこから児童自身が違いに気付くことができるような問い直しをしていた。児童の言葉を板書するという事は、他者の考えに触れ、さらに自分の考えを深めるきっかけにしたり考え方を変え、新たな考え方にシフトしていったりすることだと考える。また、間違えやすい場所を抽出して板書することで、どこが間違えやすいのかを理解して学ぶことができたことが分かった。

(2) 児童の考えを揺さぶる発問の工夫

児童の発言を切り返し、焦点化する教師の発問によって、授業の展開が変わったり、児童の考えを揺さぶったりすると捉える。また、児童が自ら気付きを得て、考え方を変えることができた点を称賛することは、児童が主体的に学びを進めていくうえで、とても重要な声かけであり、教師の発問の工夫だと感じた。例えば、漢字ドリルの学習で、「分身」という言葉が出てきた際に、「何が分かるのかな。」と切り返すことで「人間が分かる。」というような意見が出た。この切り返しが言葉の意味を考えたり、そのものの本質に迫ったりすることに繋がるのだと理解した。

(3) 個別指導を全体指導へ生かす

多くの机間指導を通して、児童一人一人の理解度を把握し、児童の実態に応じた授業展開をすることが大切だと学んだ。できたところまでを積極的に丸付けすることで、児童の意欲を高め、次の集団解決の場での発表への自信にも繋がると理解した。

3. 授業実践と考察

授業を通しての考察は、大きく分けて2つある。1つ目は、学校探検の授業では、どのようなことを1年生に伝えていきたいかを考える時間を設けることで、児童が主体的に学びに向かっていると感じた。1年生を思って考えたり、去年の学校探検を思い出しながら考えたりしている姿から、前向きな気持ちで学校探検に臨んでいることも分かった。2つ目は、間を取り、発問する声かけの工夫が大切だと学んだ。間を取ることで多くの意見が出ることが分かった。

4. 実践の成果と今後の課題

授業展開に必要な言葉がけで大切だと学んだことが大きく分けて2つある。1つ目は、児童が意欲をもって学びを進めていくためには、児童が何を問われているかをはっきり分かる発問をすることが大切だと理解した。子どもが迷わない発問や子どもが答えやすい発問にすることが重要である。2つ目は、補助発問やゆさぶりの発問によって、児童の考えを深めることができるということだ。場面に応じて、主発問と補助発問を使い分けることで、児童は見方・考え方を働かせることができるのではないかと考えた。

今後は、さらに幼児教育との連携を図り、直接体験を重視した学習活動において、気付きの質を高める指導の仕方を深く研究していきたいと考える。加えて、児童の興味・関心を学びの出発点として、実際に触れたり、友達と伝え合ったりすることで学びを深めていくことができるような支援や言葉がけについても学んでいきたい。

参考等文献（本文に引用箇所明記がない文献用）

・藤田直代「学ぶ楽しさ、分かる喜びを実感できる授業づくり～主体的・対話的に学び合う国語科書写学習を通して～」

(https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/14782/01report_fujita.pdf)

(令和4年10月18日22時35分閲覧)

・石井英真『授業づくりの深め方―「よい授業」をデザインするための5つのツボ―』、ミネルヴァ書房、2020、198頁・210頁

謝辞

お忙しい中、多くの指導、たくさんのご配慮をいただき、協力をしてくださった長期フィールド実習校の先生方には、大変お世話になり、とても感謝しております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。